

–伊賀の若者と市長が語る、伊賀市の未来–

若者会議

市長

「伊賀市若者会議」メンバー

上見 浩基さん
大澤 愛生さん
中保 友里さん

伊賀市長
岡本 栄



新年明けましておめでとうございます。

今回の特集は、新春企画として、伊賀市若者会議のメンバーと岡本市長との対談をお届けします。若者会議を代表してお越し頂いたのは、上見浩基さん、大澤愛生さん、中保友里さん。

対談では、開庁前の新しい伊賀市庁舎で若者会議への参加のきっかけや取り組んでいきたいこと、若者から見た伊賀市の魅力などを語っていました。

(本文中敬称略)



知りたいです。

時、立地面でも可能性が高そうな場所でした。

市長 そうだったんですか。

上見 それで伊賀市に来て、出会う人が本当におもしろくて、ここにまだ

上見 浩基さん（右）
中保 友里さん（中）
大澤 愛生さん（左）



市長 はじめまして、本日は新春企画として若者会議の皆さんに集まつていただきました。よろしくお願いします。

では、まず皆さんに伊賀市の印象と、若者会議に参加した動機をお聞きしたいのですが。

大澤 私は高校生の時から伊賀市を離れて、この4月に就職で伊賀に帰つてきたんですけど、伝統品をもつと発信していくという雰囲気だつたり、まちおこしというか、少しずつ新しいことが増えてきていたなど感じました。

市長 大澤さんは学校で英語の先生をやられているんですね。

大澤 はい。私が若者会議でどんな新しいまちおこしをしていけるかなと考えた時、大学で英語を専攻し、留学していたこともあって、海外からの観光客の人たちに日本帰りではなく伊賀市に泊まつていただいたらいいなと思って参加しました。

市長 中保さんは?

中保 私は転勤で伊賀市に赴任することになつたのですが、大学生のときに上野商工会議所の伊賀ビジョン

策定に携わつたり、以前から伊賀市とかかわりがありました。そのときに初めて乗った伊賀鉄道の感動が特に印象に残つていて忘れられません。四方の山々に見守られながら、田園風景を抜け、お城のある市街地を走る忍者列車は伊賀市ならではだと思いました。

市長 中保さんはいわゆる伊勢の国

中保 はい。私は伊賀市出身ではありませんが、これはきっと学生時代からのご縁なんだから、ぜひ参加したいと思いました。こちらでは同世代の人たちと出会うきっかけがなかなかないので、皆さんどういうことを感じているのか、リアルな思いを

上見 ベトナムから日本に帰ろうと思つた時に、自分が生まれた三重県がいいなと思っていたんです。その時に、東京の有楽町の移住センターで知り合つた伊賀市の移住コンシェルジュのかたが、3日間もかけて伊賀市中を案内してくれたんです。どの地域に住みたいかとか、いろんな人を紹介してもらひながら。実際に伊賀市に来て、建物が立派で、土地に文化があつて、そうした蓄積されたものがあるまちだなと感じました。またこの先、起業などを考えた

市長 藤堂高虎が伊賀に来た時に、「伊賀は秘蔵の国」と言つたそうですが、その通りということなんでしょう。
上見さんは、ベトナムで過ごされていたそうですが、なぜ伊賀に来られたのですか。

中保 伊賀市は関西圏といつても、か良い言葉は見つからないですが、伊賀市には三重県の太平洋側にはない独自の魅力を感じていました。



たらおもしろいことができそうとう感じがすくありました。その流れの中で若者会議があつて、これまで移住者のつながりしかなかつたので、伊賀市的人はどういうことを考えているのか知りたいなと思つて参加しました。

市長 若者会議に入つて、どんな伊賀市にしていきたいと思つていますか。

上見 若者会議は、大学生になつたばかりの人から僕のような世代までいて、それぞれ見てゐるところが違ふので、この年齢の幅で知り合つことがすく大事というのが一番になります。

若者会議を通して、何ができるのかというよりは、どういうことに疑問を抱くのかということがすく大事で、その後は、それぞれが出会つた人と次の一步を踏み出していくのかなつて思います。

市長 そうですね。皆さんには、いろいろ言つてほしいですね。どに落ち着くかは私たちが言うべきことではなく、皆さんが考えていくことだし、それは個人的なことかもしないし、あるいは組織でやつっていくことかもしれない。皆さんは歩んできたところは違うわけだから、その中で見てほしんだと思いますね。中保さんはどうですか。

中保

夢をかなえたいと思っている人や何かに困つている人に寄り添つて、一緒に解決していこうという雰囲気が育つていくといなと思ってます。個人としてはアンテナを高く張つて、伊賀市を取り巻く環境の変化や今何が起こつているのか、皆さんが何に関心を持っているのかということを察知して、積極的に取り入れていきたいです。そのためにも多くの人と話して、見識を深めたいと思います。

市長

やつぱり自分がどんなところだつたらがんばれるのか、住めるのか、希望が持てるのかということなんだろうなと思いますね。

だから、若者会議で考へいただく時に、将来の子どもたちのこともしっかりと目線の中に入れていただきたいと思うんです。

大澤 先日、学校の生徒たちが伊賀市の未来作文というのを書いたのです。が、その時に子どもたちが、「伊賀市の未来って分からへん」と言つていたので、自分がどんな伊賀市だったら住みたいとか、今の目線で思うこ

とを書いたらどうかとアドバイスしたんです。そうしたら、伊賀の伝統的なことが好きとか、伊賀市が好きっていう子が多くて。それは子どもたちがそういうものを見て、感じて育つってきたからであつて、それを次につないでいってほしいっていう思いがすくあります。

若者会議でも、発信するだけじゃなくて、学んだことをアレンジして、また次につないでいく。そういうつながりを作つていけたらいいなと思っています。

市長 こんなにいろんなことをきちんと考へてくれる人たちが伊賀市にいるんやな、安心やなつて思える若者会議にしてもらいたいですね。



最後に、皆さんのがこの若者会議をどんなふうにしていきたいのか聞かせてください。

大澤 自分一人が何かするとなると勇気がいるけれど、伊賀市が好きだし、これからもずっと住んでいきたくと思っていて、その第一歩として、みんなで何かをしよう、考えていくつて思えるものになればと思っています。若者会議にはいろんな思いを持つ人がいて、一人ひとりの力が集まることで、大きな力になつていくと思うので、それが長い目で見ると、伊賀を支えていく、若者たちで支えていくというものになればいいなと思います。

中保 これから伊賀市つてどうなつていくんだろうっていう漠然とした不安や疑問をお持ちの人もいると思います。大きさかもしれません、若者会議がその一つの光となつていくといなと感じています。未来に向かって大きな夢を描いてどんどん前に進めていかないとできることも実現しないと思うので、今日、この対談をきっかけにあらためて自分を見つめなおして、何ができるのか、何がしたいのか考えていきたいです。

らの価値観を発信し、わかるように伝えていきたく思っています。まずは若者会議のメンバーや行政の人たちと一緒に、「そんなのあつたらおもしろそう！」って思えることを考えられる場所になればいいなと思います。

ところで、市長さんは、2019年はどんなことに取り組んでいこうと思っていますか。

市長 私は、市民の皆さんに可能性を開く、そんな土壤づくりをしていくのが行政の仕事だと思っています。一人ひとりもそうですが、地域としての可能性、他の地域にはない事がいっぱいあって、ポテンシャルはかなり高いわけですから、それをしっかりと形にしていく。それが地域経済に結びついて、まわりまわって若い人たちの力になり、そして未来への力になつて、まわりまわって若い人たちの力になりますから、そんなことをやっていきたいなと思っています。皆さんに取り組み、それが一人ひとりの自己実現につながつたり、地域の元気づくりにつながることになると思うので、ぜひこれはやつていきたいなと思っています。

交流できる場所、居場所づくりという意味で、旧市庁舎のリノベーションに取り組み、それが一人ひとりの自己実現につながつたり、地域の元気づくりにつながることになると思うので、ぜひこれはやつていきたいなと思っています。

やつぱり大事なことは、伊賀市に生まれて、住んで、良かつたなとも思える、そういう誇りを持ってもらえて、楽しく地域を盛り立てていっていただきたいと思っています。

個別のことでは、若い人たち、いろんな年代の人たちが、しっかりと本日はお越しいただきありがとうございました。

上見 これから時代は、いわゆる働き方や暮らし方というものがテーマの一つになると思っていて、それ

